

水陸萬頃

第23号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

頑張る若手を紹介します！

金ケ崎町で『ねぎ』を栽培！ 小原堅太さん



小原さんは就農前は東京都で会社員として勤務していましたが、父からの声かけで就農を決意、地元金ケ崎町へUターンしました。実家では両親が水稻と小ぎくを生産していましたが、小原さん自身は野菜での独立自営を希望し、数ある品目の中からねぎを選択しました。県内外のねぎ農家を複数訪問し研修を経て、平成29年に就農しました。

就農当初は、病害が発生したり、細いねぎしか収穫できないなど、計画どおりの生産数量、売上に届かず、苦勞されたそうです。

以降、その都度、しっかりとした良いねぎを作っていこうと気持ちを新たに、栽培管理や資材などを見直し、改善を重ねています。計画的に規模を拡大し、現在では3haの農地にねぎを作付けしています。また、就農時から機械化栽培体系を目指し、減価償却費を考慮しながら、栽培・出荷調製に係る機械を計画的に導入しています。

小原さんは、積極的に雇用を活用するとともに、働きやすい職場づくりにも前向きに取り組んでいます。スタッフに応じた作業工程の見直しを行うとともに、スタッフがやりがいを持って作業ができるよう出荷量の見える化を行っています。

毎年11月初旬に、子供たちが土や農業に触れる機会として、ねぎ畑を会場に、掘り取り体験やトラクター試乗等のイベントを開催しています(今年は11月1日開催予定)。

楽しく、笑顔でいられる持続可能な農業を目指して、安定した販売と単収の向上に取り組んでいきたいと意気込む小原さん。今年は新しい家族も増え、やりたいことに挑戦し続ける背中には頼もしく、今後ますますの活躍が期待されます。



11～12月の作物ワンポイントアドバイス

大豆〔コンバイン収穫のポイント〕

- ★裂莢（れっきょう）やしわ粒の防止
・適期になったらすぐ収穫を開始することが重要です。
- ★収穫時の水分
・茎水分：50%以下（目安：分枝が手でポキポキ折れる）
・子実水分：18%以下
- ★汚損粒の防止策
・雑草や青立ち株は事前に抜き取りましょう。
・刈り高は10cm以上を厳守（コンバインに土が入らないように）



野菜〔土壌診断の実施と冬春どり葉菜類の管理〕

- ★今年も各品目で養分過剰による生理障害や生育不良がみられました。土壌診断を行い適正施肥を実施しましょう。ハウス栽培の方でECの高い方はビニール除去も検討しましょう。
- ★冬春どり葉菜類：晴天日の日中はできるだけ換気を行って湿度を下げ、べと病や灰色かび病等の発生を防ぎましょう。生育促進と凍結防止のため、各種被覆資材を活用しましょう。播種前のかん水が不十分で明らかに水分不足の場合は、晴天日の午前中に実施しましょう。

果樹〔りんご晩生種の収穫と収穫後の管理〕

- ★晩生種は、収穫時期が遅くなるほど樹上凍結の恐れが高まります。適期に収穫しましょう。
- ★廃棄果実は、埋める・破碎するなどの処理を行い、獣害が発生しにくい環境をつくります。
- ★凍寒害の発生が心配される園地では、収穫後できるだけ早く、地際部から高さ50cm程度までホワイトンパウダー等を塗布するか、わらを巻くなどして、被害防止対策を図りましょう。

花き〔りんどう・小ぎく秋の管理について〕

- ★りんどう：今年はハダニ類、黒斑病等が多発しました。次年度の病害虫発生要因となるため、残茎はほ場から持ち出し、焼却等の処分をして下さい。
- ★小ぎく：親株ハウスで塩類集積による生育不良が見られます。養分が過剰な際は屋根ビニールを育苗後にはぐ、伏せ込み前に十分な水で洗い流すなどの対策をしましょう。

畜産〔冬期の牛の飼養管理について〕

- ★冬期は保温のため牛舎を閉め切ることが多いですが、牛舎内のアンモニア濃度や空中浮遊細菌数が増加すると呼吸器病や採食量の低下につながります。日中の暖かい時間には定期的に換気しましょう。
- ★哺乳牛は13℃以下になると発育に影響が出るため、①すきま風が当たらないようにする、②お腹が冷えないよう敷料は厚めに（10cm以上）敷いてこまめに交換、③カーフジャケットやヒーターの活用、④ハッチの上にビニールを張る（天井を低くする）などして、休息スペースを暖かくしましょう。
- ★冬期は、体温維持のため必要なエネルギー量も増えますので、牛の状態を確認しながら配合飼料や代用乳を増給します。代用乳の増給の際、乳粉末とお湯の両方を増やし、乳粉末を溶かすお湯の温度は約50℃にすると効果的です。

9月15日から11月15日まで「秋の農作業安全月間」実施中!

今年のスローガンは「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」。

忙しい秋の農繁期にこそ、焦らず、無理せず、安全第一で作業を進めましょう。
農業機械の操作はもちろん、転落ややけどなど思わぬ事故も起こり得ます。
安全意識を高め、事故ゼロを目指していきましょう。



御意見番!指導士の声

いとう ひろとし

農業農村指導士 伊藤浩紀さん



今年の夏は、酷暑続きのうえ雨が降らず農家には大変な状況でしたが、みなさん喜びの秋を迎えられておられるでしょうか。農業を取り巻く環境は、異常気象や国の方針に左右され私達にはどうしようもない部分が大きいです。私は暗い未来を考えたことはありません。私の周りには若い農業者が沢山いますし、指導してくださる先輩方や関係者のみなさんも沢山います。各メーカーのみなさんも我々に良い物を提供したい一心なのかも知れません。

いま生かされているのは農作物だけではなく、自分自身なのだ。私達がポジティブでなければ、誰も前向きになれないと思うし、農業を楽しめない。いま、地に足をつけ踏ん張る事で未来が生れる。それができるのは我々農に生きる者だけかも知れない。

そこに課題があるから挑戦したくなる。夢と希望と勇気を持って岩手から日本を支えましょう。



りんごの新品種「伊達ロマン」

栽培研修会を開催!

9月12日に胆江地方農林業振興協議会主催の「りんごスキルアップ研修会」が開催され、りんご新品種「伊達ロマン」の栽培について学びました。講師は育成元の紅果園・高野豪氏です。



「伊達ロマン」は、甘味が多い9月中旬に収穫される品種で、今年のような夏季に高温の年でも着色しやすく、濃い紅色が特徴の果実です。今秋、JA江刺から「恋心」という商標でデビューしました。

参加者は、品種の特徴や葉摘み等栽培管理について学んだほか、果実を試食しながら収穫のタイミングやポイントについて確認しました。

参加者からは、「栽培してみたい」、「栽培面積を増やしたい」との声があり、今後普及する品種として期待されます。





野生鳥獣被害防止対策



ー農作物被害ー

岩手県の野生鳥獣による農作物被害状況は、令和5年度では金額で約5億2千万円となっています。

野生鳥獣による農作物被害対策の基本は、

- ①「よせつけない（生息環境管理）」、
- ②「まもる（侵入防止対策）」、
- ③「つかまえる（個体群管理）」を総合的に実施することです。

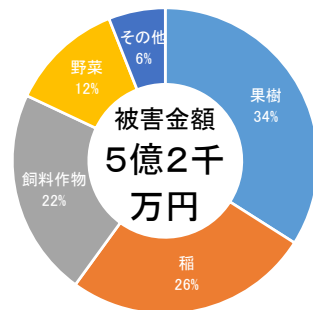
まずは、誘引物となる、生ゴミや野菜、果実などの収穫残さ等は農地に放置せず、適切に処分するようにしましょう。

ーツキノワグマによる人身被害ー

県内のツキノワグマによる人身被害の状況は、令和7年4月1日から10月15日までに29件30名の被害が発生しています。

今後、冬眠のために餌を求めて活発に活動する時期となり、農業の現場に出没することも考えられます。

クマの出没が確認されている地域では十分に注意を払い、音の出るものや忌避スプレーを携帯し作業するようにしましょう。



※令和5年度 岩手県

<作物別被害金額>

<鳥獣対策の基本>

- ① よせつけない
→ 誘引物（放任果樹、廃棄野菜等）の除去、藪の狩り払い
- ② まもる
→ 電気柵の設置による侵入防止
- ③ つかまえる
→ 捕獲



所長の小噺(こばなし)



岩手県の農業従事者数は、担い手の高齢化と減少、後継者不足等により、農林業センサスによると2010年の約114千人（販売農家における従事者）から2020年の約56千人と10年間で大きく減少しており、奥州市や金ケ崎町でも似た様な傾向にあります。

一方、岩手県内の有効求人倍率は、1.15倍（2025年7月）と前月から低下したものの、依然高い状況が続いており、農業を含め様々な業種で従業員の不足が続いております。

また、農業における新たな雇用には、周年の仕事創出や就業規則の作成、社会保険加入などの検討すべき項目も少なからずあります。雇用に至らなくても省力化や仕事の外注、繁忙期のみの人材確保など工夫されている事例もあります。

①自動走行農機やドローン、分娩監視カメラなどのスマート農業の導入により効率化を図る②繁忙期の短期的な働き手確保に向け、スキマバイトサービスの活用③GAP（農業生産工程管理）の導入により採し物をする時間短縮や作業動線を改善するなどの例も見られます。

普及センターでは、引き続き、新規就農（雇用就農）者の相談窓口の開設、雇用確保（安定）に向けた研修会の開催やスマート農業技術の実証結果の紹介などを行いますので、お気軽にお問合せください。



田野島所長